

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100258		
法人名	医療法人小林医院		
事業所名	グループホームリラ		
所在地	北九州市門司区小森江3丁目3-26		
自己評価作成日	令和3年1月16日	評価結果確定日	令和3年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1階 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	令和3年2月25日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

その人がその人らしい生活を送ることができるよう、生活歴からの生活習慣や本人の現状を尊重し、できる限り本人本位の生活を支援していくことを心がけています。利用者様のご家族だけでなく、地域密着型施設として、近隣住民が気軽に来園しやすい場所や地域づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に、コンビニエンスストアや図書館、医療機関があり、車で数分の範囲内には大型スーパーマーケット等が身近にある住宅街に「グループホーム リラ」は立地している。JR鹿児島本線や路線バスのバス停も近くにあり、山と海に囲まれた平地の環境であるため、植物公園に行ったり、釣りに行くことも手軽にでき、環境にも恵まれている。地域との交流としては、北九州マラソン開催時に炊き出しの手伝いをしたり、近隣住民の屋根付き駐車場を借りて、利用者や地域住民等とバーベキューを開催したり、月1回の校区の老人会に出席し、利用者をお昼の食事会にお連れして、今までの繋がりを継続する努力もされている。事業所行事開催については、保育所や児童養護施設、少年野球チーム等にもポスティング等でPRもしている。今後は子どもたちとの交流に一層力を入れる予定もある等、地域に根付いた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入居者様が、住み慣れた環境で、安心して過ごせるよう支援している。 ・施設内にもわかりやすいところに掲示し、職員間にて共有できるようにしている。	併設事業所である、小規模多機能型居宅介護の入口に理念が掲示してある。朝礼時に理念の確認をしており、職員が少しでも理念に対して意識出ると同時に、ケアに生かせるように取り組みをしている。	職員の目につく、事業所の入口や事務所内等に事業所理念を掲示して、より一層、理念について浸透を図ってはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・コロナ禍であったが、自治会長とも連絡をとって、近況を報告している。また、規模は縮小していたが、地域にある神社のお祭りの準備に職員が参加している。	例年であれば、地域主催の夏祭りがあり、出店のお手伝いとして職員を派遣して地域の方々との交流があっていたが、今年度はコロナ禍で実施出来ていない。今年度は規模は小さかったものの、近隣の神社の行事の準備(掃除や飾りつけ等)のお手伝い等をして、コロナ禍でありながら、地域との交流を少しでも図ろうと努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・小学校校区の老人会に職員が所属し、情報発信を行っている。また、一部の利用者も地域の老人会に加入している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・入居者様の毎月の活動内容、事故報告などを行い、各職員に回覧にて報告をしている。また、朝礼ノートにてフィードバックしている。	コロナ禍であったため、職員のみ参加の運営推進会議を実施した。会議録に関しては地域包括支援センターにも送り、情報提供をしている。例年であれば、民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員、利用者家族にも参加をもらっていた。町内会長から地域のお祭りや行事へのお手伝いの依頼がある等していたが、今年度はコロナ禍で実施出来ていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・北九州市の介護保険課の担当職員や、地域包括支援センターの担当職員と、日頃より相談を行っている。今年に関しては、コロナ感染予防等、感染防止を中心に協力関係を築いた。	新型コロナ・ウイルス感染拡大防止についての質問や相談を実施して、その都度回答をもらって必要な連携を図っている。また、グループホームの空き情報を北九州市に提供して、グループホームの空き情報が共有出来る様にしている。生活保護受給者が2名おり、担当のケースワーカーにケアプランを提出したり等、必要な連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入居者様に尊厳のある生活を送ってもらえるよう施設運営を行っている。 ・3か月に1度身体拘束等に関する委員会を開催し、介護職員、管理者、ケアマネそれぞれの立場から、適切なケアを実践できるよう協議している。	現在、身体拘束を実施している利用者はいない。身体拘束等に関する委員会を3か月に1回開催している。グループホームと小規模多機能型居宅介護各2名ずつ委員の職員がいるので、委員のみで開催をしている。内容は職員が回覧出来る様にしている。各職員に「身体拘束に関するアンケート」を実施して、身体拘束についての意識向上に努めている。	

R2.3GH自己・外部評価表 (GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 施設内へのカメラ設置、録画 管理者による職員への指導の実施 		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、成年後見制度のご案内を実施している。 	日常生活自立支援事業を利用されている利用者はいないが、成年後見制度を利用されている利用者が1名いる。成年後見制度の事について質問があった際は、回答が出来る様に事務所にパンフレットを準備しており、必要時に説明できる体制を整えている。成年後見制度についての外部研修にも参加をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 新規契約時や契約更新時に説明を行い、疑問点や不安点を解消するように努めている。 		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ご家族面会時に必要に応じて要望の聞き取りを行っている。 ご意見箱の設置 	ご意見箱を設置しており、利用者や家族からの意見を吸い上げられるようにしている。遠方の家族以外は、月に1回、利用料金のお支払いに来てもらっているため、その時に家族と十分にコミュニケーションを図り、事業所についての運営等について意見をお聞きする場面を持つようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 全職員を対象とした、管理者による定期的な個人面談を実施。 その都度必要に応じた面談、会議の実施。 	体調不良の時に勤務の変更や時間調整、出勤形態の変更の相談をして、随時、その日の職員の勤務体制に支障が出ないように小まめに調整している。希望の勤務形態を取り入れて、休みが取りやすいように工夫している。面談という形で職員と接すると、職員が発言しにくいいため、日常的な会話の中で、業務上の相談等を随時聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員の個性や特性の応じたチーム編成、担当業務の振り分けを行っている。 		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 職員募集の際、性別、年齢、生活状況による採用、不採用を行っていない。また、釣りなど職員のこれまでの経験や得意分野を生かし、レク活動などに反映している。 	10歳代から70歳代の職員が勤務している。職員の体調不良や職員の私的都合により、随時、勤務変更に対応する等、職員が働きやすい勤務体系に合わせている。お菓子作りや折り紙が得意な職員がおり、特技を生かして利用者と一緒にレクリエーションを実施している。職員の募集に関しては、年齢制限や性別など関係なく採用をされている。	

R2.3GH自己・外部評価表 (GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	言葉遣い、接遇等、日々の業務の中で職員同士にて確認し、必要に応じて教育を行っている。	例年であれば、外部研修に参加をしているが、今年度はコロナ禍で研修が開催されていない。利用者に対して、職員が不適切な言葉遣いをしている場面を見たときは、不適切な理由を十分に説明して指導をしている。例年であれば、人権教育の研修に参加した職員が他の職員に伝達研修を実施している。	福岡県講師団講師あっせん事業を利用して、人権教育や啓発に、より一層取り組んではどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修に行った際は管理者、各職員にフィードバックをしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修に参加した際、同業者と情報交換等、交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前のアセスメントの中で本人、家族と面会し、相談や要望をお聞きし、信頼関係を築くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居相談時にお互いの疑問点、不安点を解消すべく、担当職員を中心に信頼関係を構築している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居相談時にグループホームだけでなく、併設している小希望多機能型居宅介護施設や外部サービスの提案を含めご家族、本人様の希望の沿った利用方法をご案内している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常の生活の中で、利用者様のできることは積極的にかわりを持ってもらい、共同生活の構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナ禍であったが、帰宅を希望される家族もあり、感染防止対策を徹底した上で定期的な外泊、外出の機会を確保している ・家族に随時適切に利用者様の状況を伝え、情報の共有に努めている。		

R2.3GH自己・外部評価表 (GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・施設内レクだけでなく、思い出の場所への外出レクを行っており、住んでいた地域に定期的に散髪に行かれる利用者もいる。	グループホーム所在地の小学校区に住んでいる利用者が2名いるので、地域の行事や敬老会に参加をされた事もあったが、今年度はコロナ禍で実施は出来ていない。コロナ禍で、地域の餅つきには参加出来ていないが、地域の方が、利用者には餅を持って来て下さる等地域との関係が保たれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様の配席の考慮、長所や生活歴を考慮した役割分担を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所時の相談、お見舞い等を含め、必要に応じて連絡、連携、アドバイス、援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者様の配席の考慮、意向、個性、生活歴に応じた役割分担を行っている。実現可能な要望や入居前の生活リズムを尊重しながら、過ごしやすい生活が送れるよう、支援している。	利用者本人からの聞き取りや家族からの聞き取りで、思いや意向を確認している。何か持ち込みたい物がある際は、極力持ち込みをしていただき、本人の思いを大切にしている。また、今までの生活を少しでも継続出来る様にしている。意思疎通が難しい利用者であれば、家族に意向を確認したり、元氣だった頃の本人の意向を推測したりしながら支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人様やご家族様とのお話しの際、情報収集をこまめに行い、新たに知りえた生活歴や情報を介護記録や朝礼ノート等に全職員と共有し、支援に生かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・モニタリングやアセスメントによる状態把握を行い、現場には日々の申し送りや介護記録、朝礼ノートによる記録により、現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者会議や面会時において、入居者やご家族の意見や要望をお聞きするようしている。また、本人の状態観察や現場スタッフへ現状を確認し、対応方法を考えながら、介護計画を作成している。	アセスメントやサービス担当者会議の開催、会議録の作成やケアプラン作成、モニタリング作成については一貫して計画作成担当者が作成をしている。ケアプランの原案を計画作成担当者が作成して、サービス内容等については、職員と一緒に内容を確認してケアプランを多職種共同で作成している。	サービス担当者会議録に嘱託医から頂戴した意見等を記載して、より一層内容を深めてはどうだろうか。

R2.3GH自己・外部評価表 (GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録に生活状況を記入してもらっている。 ・直接現場に足を運び、実践状況などを確認している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の状態、状況やご家族の要望に応じながら、福祉用具の購入、レンタル、訪問マッサージ、ボランティアの受け入れ募集など、施設以外のサービス検討、導入している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ禍のため、前年に比べ回数は減ったものの、感染防止対策を講じた上地域周辺のお店、自治会行事、公共施設などに利用者様と一緒に赴き、地域貢献や気分転換を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居者の状態、ご家族のご希望に応じて、かかりつけ医、緊急時の受診を調整している。また、特変時には、上司に相談し、必要に応じて提携救急病院を受診する対応を行っている。	嘱託医以外にも、今まで利用者が受診に行かれていた医療機関にも受診に行かれている。受診に関しては、家族が介助する事もあれば、車椅子状態であり家族が受診介助が難しい場合は、事業所職員が受診介助したりなど、ケースバイケースで対応をしている。受診内容については家族と事業所職員とで共有が図れるようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・かかりつけ医と綿密な連携を図り、健康状態の維持、向上を図っている。 ・利用者の状態を看護師に伝え、研修等にもりこむようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・受診前の連絡相談を実施している。 ・入院時に介護サマリーを提供している。 ・担当が必要に応じて、情報交換、共有できるよう、区内の総合病院のほとんどと関係づくりができています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・体調、状態を観察し、主治医と相談のもと家族への報告、今後の対応について相談したのち、朝礼やミーティングにて共有をはかっている。	看取り期は重症化してきた時は、希望される時期までは事業所に対応している。その後、より一層、重症化した場合は、特別養護老人ホームや介護療養型医療施設等、利用者本人の心身状態にあった居場所を提案している。その際は、嘱託医やかかりつけ医等から家族に対して十分に医療上の説明をしてもらっている。	

R2.3GH自己・外部評価表 (GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを作成し、周知している。実際に問題なく受診対応、救急対応できている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回防災マニュアルに基づいた防災訓練、避難訓練の実施。	年2回避難訓練を実施しており、その内1回は夜間想定での避難訓練を実施している。必要に応じて消防署の立ち合いをお願いして、講評をもらっている。職員の緊急連絡網が掲示しており、職員の応援が求められる様にしている。地域の方々には、災害があった際等は、出来る範囲内で救助の応援をして頂くように依頼をしており、協力体制がある。	火災だけではなく、水害や津波、地震等の災害についての訓練も実施してはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員が一人ひとりの人格の尊重を常に心掛けるようにし、よそよそしくない程度に、節度ある対応をしている。できていない場合はその都度管理者を中心に教育を行っている。	書類の管理については、扉のついている書類棚に収納するようにしている。場合によっては、鍵付きの書類棚に管理する等徹底している。入浴や排せつ介助の際も、可能な限り希望があれば同性で介助している。内鍵をかけて入浴の希望がある利用者には、家族にも了承をもらい、安否確認をしながら希望に添った入浴方法をとるなど、利用者の気持ちを尊重している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・業務の流れよりも、できる範囲で本人の要望、希望を聞きながらケアを実践している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者個別にそった、生活リズムを尊重している。(就寝、食事、起床時間等)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎月の訪問理美容の実施。 ・本人様の希望に沿いながら、ヘアカラーやカットの実施。 ・ネイルアート、マニキュア等をレクにて行う。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・配膳、下膳、盛り付けを利用者様と職員と一緒にやっている。	小規模多機能型居宅介護も併設しているため、調理場でグループホーム2ユニット分と一緒に作っている。大皿でユニット毎に分けられて、各ユニットで利用者ごとに取り分けて提供をしている。配膳、下膳、盛り付け、コップ拭き等が出来る利用者は、職員と一緒にしてもらっている。買い物も利用者と一緒にやっている。	

R2.3GH自己・外部評価表 (GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本人の状態に応じた食事形態を考慮し、食事量や水分量の把握を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアの実施や、見守り、本人様の状態に応じた介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・できるだけおむつをしないよう支援している。 ・リハビリパンツ、おむつ使用の方については定期誘導時間等を考慮しながら、トイレでの排泄を促している。 ・自尊心を傷つけない様、尿とりパット等の使用を促す。	布オムツを使用している利用者はいないが、夜間、ポータブルトイレを使用されている利用者が1名いる。排便チェック表は1ユニット9名が一覧に記載されているものがあり、スタッフ間で排便状況が分かる様に工夫している。排尿チェック表を活用して、排尿間隔が把握できて、適切な時間帯にトイレ誘導が出来る様になり、失禁が減った事例がある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事や水分量の把握、主治医との相談による排便コントロールの実施。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・職員配置の中で、できる範囲でご希望を聞きながら、できるだけ本人様の希望に添えるよう実施している。 ・日中だけでなく、夜間も入浴できるような体制をつくっている。	週2回から3回入浴の機会を提供している。本人の好みの化粧水、化粧品を使用している利用者もいる。夕方以降に入浴を希望される利用者があるため、極力対応をしている。また、どうしても職員の見守りや介助を希望せずに利用者一人で入浴したいとの希望がある方には、家族の了承を得て利用者一人で入浴する等、極力利用者及び家族の気持ちを尊重した入浴方法をとっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活リズムに合わせて、安眠できるよう職員全員で気を使っている。また、適宜、温度調整を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋の内容、留意点について説明、理解し、対応を徹底している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の希望等を考慮し、入居者様の生活歴や特性に応じた家事分担を実施している。 ・買い物行楽等の外出、おやつ作り等ご希望に応じて参加していただけるよう努力している。		

R2.3GH自己・外部評価表 (GHリラ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であったが、散歩やドライブ等できる範囲で利用者本人様から希望を聞き、近辺の施設などを中心に外出レクを行った。	例年であれば、利用者の県外にある実家に外出同行支援したり、お花見、あじさい見学、コスモス見学、植物園、紅葉狩り等外出レクリエーションを実施していたが、今年度はコロナ禍で実施していない。今年度は、車外には出ないものの、ドライブに行っても外出の機会を持てるようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在はご自身だけでの金銭管理が難しい方がほとんどで、外出時の買い物の直前にお金をお渡しするようにしている。数名は小分けしたお財布を管理してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望のある利用者様には携帯電話を持ってもらい、家族に電話できるようにしている。 ・手紙等をもらった時は、返事を書くように働きかけ、関係を継続できるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・日々のこまめな清掃を心がけ、清潔な環境を保てるように努めている。 ・気温や天候に合わせて、換気や室温調整、採光を行い、快適に過ごせるよう努めている。 ・音楽を流すことにより、リラックスできるように心掛けている。	レクリエーションで作成した折り紙や、釣りに行った時に釣りあげた魚と利用者が一緒に写った写真、置物等を共有スペースや個人の好きな場所に飾っている。行事の写真は利用者や家族が見える様に貼っている。例年であれば2か月に1回、その季節に応じた行事の写真を貼っているが、今年度はコロナ禍で行事の実施が難しく、様々な行事参加の写真を貼る機会がなかった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が思い思いに過ごせるよう、配席をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・在宅時から使っている家具や食器をお持ちいただき、居心地がよく、安心できる環境づくりに努めている。	事業所として、エアコン、カーテン、木製ベッドや介護用ベッドを準備している。利用者が持ち込みを希望された仏壇や冷蔵庫、テーブル、ソファ、植木鉢等、利用者の思い思いの物を持ち込まれている。誕生日の時の記念写真や家族写真を居室内に貼っている利用者もいる。職員と一緒に週2回から3回居室内掃除をする事で、利用者とのコミュニケーションも図ると同時に、居室内の環境を整備している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人様の状態やADLに合わせ、居室や利用空間への距離を考慮している。また、手すりやその他の福祉用具を活用し、できる限りご自身の力を使って生活していただけるよう工夫している。 ・アセスメント等により何ができるかをしっかり把握し、できる範囲で家事活動などを行っていただけるようにしている。		